

## 2021年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2021年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2022年5月26日開催の理事会で承認されましたので、ここにご報告いたします。決算の詳細は、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

決算のうち事業活動収支の概要をご説明いたします。事業活動全体では、事業活動収入計387.6億円、事業活動支出計333.5億円により、基本金組入前当年度収支差額は54.0億円の収入超過となりました。

事業活動別では、教育活動収支差額は46.8億円の収入超過です。教育活動収入の主なものとして、授業料等の学生生徒等納付金277.3億円は、大学コミュニティ人間科学部や学費改定の年次進行効果により、学院全体で前年度比5.6億円の増収となりました。手数料17.5億円は、大学の入学志願者数の回復傾向により、前年度比2.5億円の増収です。寄付金20.7億円には、校友からの高額のご寄付が含まれており、前年度比11.3億円の増収です。教育活動支出のうち、人件費193.4億円は、前年度比3.5億円の増加となりました。教育研究経費117.7億円には、大学修学支援新制度による奨学費計上分5.1億円、大学新図書館棟（仮称）建築に伴う既存校舎の解体撤去費3.9億円などが含まれています。前年度は大学・女子短期大学のオンライン授業環境整備給付金8.9億円などの多額の臨時的な支出があったため、当年度は前年度比13.8億円の減少です。

教育活動外収支差額は7.9億円の収入超過となり、前年度比4.3億円の増加です。受取利息・配当金が1.6億円の増収となったことや、前年度に借入金を全額繰上償還したことで当年度は借入金等利息の費用がないことが収入超過額増加の要因です。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額の二つを合わせた経常収支差額54.7億円は、学生生徒等納付金、手数料、寄付金の増収、教育研究経費の減少などにより、前年度比43.9億円の増加です。

経常的な収支を除く特別収支差額は0.6億円の支出超過となりました。支出超過の要因は、大学新図書館棟（仮称）建築に伴い、既存校舎を解体し除却したことによりです。

経常収支差額と特別収支差額の合計が、基本金組入前当年度収支差額54.0億円になります。

このほか、資金収支計算書では、施設関係支出に大学新図書館棟（仮称）建築計画の建設仮勘定34.6億円を計上しています。大学新図書館棟（仮称）は2024年4月に開館の予定です。その他に、安全安心なキャンパスづくりのため計画的に実施している工事として、当期は大学相模原キャンパスC棟（Ⅱ期）及び高等部PS講堂の天井耐震補強工事を行いました。

また、収益事業部会計では、前年度まで収益事業部の資産として使用してきたアイビーホール新館などについて、用途変更のため、収益事業部会計から学校法人会計に戻すことになりました。このため、収益事業部会計の貸借対照表では有形固定資産や元入金が減少しています。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、学校本来の活動が制限される中、教育・研究機関としての使命を継続していくために様々な取り組みを行ってまいりました。

2022年度は、大学新図書館棟に続き、幼稚園園舎建替計画も本格化します。新型コロナウイルス感染症の終息がまだ見通せない中であっても、引き続き、質の高い教育研究の実現、財務基盤の強化に努めてまいります。

以上